

秋田大学×秋田県立大学×秋田工業高等専門学校×秋田魁新報社

あきたキッズ  
プログラミングアワード  
プログラミング  
オンラインスクール

本スクールはプログラミング学習ツール「Scratch(スクラッチ)」を使った全10回のオンライン講座です。教材はすべてオリジナル。初心者でも楽しくプログラミングを学べる内容です。

オリジナル教材を作った、秋田県立大学システム科学技術学部准教授、秋田県子どもプログラミング教育研究会会長 廣田千明(ひろたちあき)氏による各講座の解説を10回にわたり掲載します。

第5回 「ゴミはゴミ箱へ」

どの教科で学ぶ？

2020年から小学校でプログラミング教育が全面実施されています。必修化と聞くと、国語や算数のようにプログラミングという教科ができたと思ってしまうかもしれませんが、そうではありません。それは、どの教科でプログラミングを学ぶのでしょうか。

現在、文部科学省が進めているGIGAスクール構想により、小中学生には一人一台のパソコンやタブレットなどの端末が配付されています。プログラミングの能力だけでなく、端末やインターネットの情報を有効に活用していく能力は「情報活用能力」と呼ばれており、すべての学習の基盤となります。

したがって、算数でも社会でも、さまざまな授業の中でプログラミングが実施されています。

現れ、中央に落ちている空き缶を拾って、ごみ箱に捨てます。空き缶がごみ箱に捨てられると場面が替わり、「ゴミはゴミ箱へ」というメッセージが表示されます。

「プログラミング」というと、ロボットを動かしたり、何かを計算したりするものと考えがちですが、このように伝えたいメッセージをアニメーションで表現することもできます。

動きを重ね合わせる

プログラミングの技術としては動きの重ね合わせを学びます。「ぐらむん」がごみを捨てる時、空き缶が空を飛んでいるように見えるのは、上下の動きと左右の動きを重ね合わせているからです。

アニメーションを作る

さて、スクールの第5回では、「ゴミはゴミ箱へ」というアニメーションを作成します。



第5回 ゴミはゴミ箱へ

プログラムをスタートさせると画面左からキャラクターの「ぐらむん」が



▲動きを重ね合わせたプログラム

この動きは、横に移動するタイプのアクションゲームによく使われます。キャラクターが走りながらジャンプする動きは空き缶と同じ動きとなっています。

今回学んだ内容を参考に、オリジナルのアニメーションメッセージを作ってみましょう。

受講までの流れ

- 【STEP1】公式サイトよりお申し込み
- 【STEP2】スクリーン録画・教材ページのURLをメールで送付
- 【STEP3】教材ダウンロード

STEP4 教材をダウンロード

ラッチで使用するキャラクターや背景画像を掲載したページのURLをメールで送ります。動画と教材は順次追加されます。※URLはお申し込みのときに本人のみが使用できます。複数人で視聴される場合は各自のお申し込みが必要です。受講者様のご負担となります。

(個人情報の取り扱いについて) 本スクールを通じて得る個人情報はお申し込み者の了承をいただかない限り、第三者に開示することはありません。

主催  
秋田魁新報社

- 【共催】秋田大学/秋田県立大学/秋田工業高等専門学校
- 【運営協力】秋田コアビジネスカレッジ/アイネックス
- 【後援】秋田県/秋田県教育委員会/(一社)秋田県情報産業協会/(一社)共同通信社/(株)共同通信社/経済産業省/文部科学省/デジタル庁
- 【企画協力】秋田県子どもプログラミング教育研究会 会長 廣田千明(秋田県立大学 准教授)

【お問い合わせ事務局】  
あきたキッズ プログラミングアワード実行委員会  
秋田魁新報社 営業局 (秋田市山王臨海町1-1)  
TEL.018-888-1862  
平日 9:00~17:00

あきたキッズプログラミングアワードとは、県内の小中学生を対象にしたプログラミングコンテスト。秋田の未来を担う人材の育成と、プログラミング教育の裾野の拡大を目的に、2019年から開催。秋田魁新報社が、県内の高等教育機関、民間企業と連携し、主催している。

受講申込受付中  
対象:秋田県内の小・中学生  
入門編全10回

受講無料

お申し込みは公式サイトから  
https://akpa.jp/online-school  
あきたキッズプログラミングアワードQ

